

アルツハイマーに立ち向かいましょう

アルツハイマー病に関する認識を高める啓もう活動

カリフォルニア州は、他のどの州よりも、65歳以上の高齢者が多い州です。アルツハイマー病と診断されるカリフォルニア州民の患者数は、2040年までに倍増すると予想されており、私たちにとって、アルツハイマー病および関連認知症（ADRD）に対処するために必要なことを理解することが大切です。

アルツハイマーの主な危険因子（リスク・ファクター）は加齢ですが、カリフォルニア州民は、尊厳と保障を持って歳を重ねていく権利があります。2019年に、ギャビン・ニューサム知事は、州全域への推奨事項の枠組みを示す「アルツハイマー病予防、心構え、方針対策委員会」を立ち上げました。これは、アルツハイマー病によって不当

な扱いを受けているアルツハイマー病患者やその家族、彼らを支える介護者、コミュニティを支援するための組織です。

共にアルツハイマーに立ち向かいましょう

アルツハイマーに対する認識が低く、恥だと感じるため、多くのカリフォルニア州民は、助けを求めようとしません。「Take On Alzheimer's」（訳：アルツハイマーに立ち向かう）は、認識を変え、偏見を減らすことを目的とした多言語、多文化による啓もう活動です。この運動は、多様なコミュニティに対し、兆候、危険因子、脳の健康を促進する方法についての啓発を行っています。

カリフォルニア州民は、アルツハイマー病について何を知っておくべきでしょうか？

- ・ アルツハイマーはカリフォルニア州で3番目に多い死因であること
- ・ アルツハイマーは記憶、思考、行動に影響を及ぼす認知症の一種であること
- ・ カリフォルニア州では現在、アルツハイマー病を患っている人が約69万人いること
- ・ アルツハイマーは慢性疾患であり、脳の健康を管理し改善することが可能であること
- ・ 女性や有色人種がアルツハイマーを発症しやすいこと
- ・ アルツハイマー病および関連認知症（ADRD）と診断される人の多くは65歳以上ですが、兆候は55歳くらいから現れることがあるということ

